

岩手大学がシニアカレッジ開講 全国から参加、同窓会活動も活発

8月31日から9月6日までの7日間、岩手大学が、滞在型の生涯学習プログラムとしてシニアカレッジを開講しました。平成19年以降今年で4回目。キャッチフレーズは「イーハトーブの学び舎」です。カリキュラムは、一定レベルの成果について学びたい、という参加者の要望に応じて、「いわて」の地域性にちなんだ農学、文学、歴史等の分野で構成。特に、今年は、遠野物語100周年ということもあり、遠野の人佐々木喜善と啄木や賢治との関わりなどを取り上げたほか、ユネスコ無形文化遺産である早池峰神楽の鑑賞、遠野に泊してのフィールドワークも組み込まれました。

今年の参加者は44名で、うち県外からが39人。年齢は54歳から79歳までで、平均年齢は65歳。男女比は、概ね半々でした。

皆さん、事前学習も怠りなく、非常に熱心に受講。その

ような緊張感が参加者の絆を強めて、平成20年に結成された同窓会活動も活発で、これまでの参加者が年に一度は盛岡に集まって旅行を兼ねた懇親会を開催しています。今年は、10月中旬に2泊3日での開催が予定されているとのこと。会長の佐藤定美さん（滝沢村）は、「県外の岩手ファンも多く、季節の情報など、年間を通じて交流しています。」と語っていました。



＜藤井学長の「いわての大地」を受講する参加者＞

★お知らせ

『「ご近所支え合い活動助成金」説明会 &地域活動団体等交流会』開催

高齢者の社会参加活動を支援する「ご近所支え合い活動助成金」に関する説明会を、下表の日程で、県内10か所で開催します。なお今年度は、出席した各団体や法人相互の連携のきっかけづくりを図るため、情報交換の機会として、説明会の他、交流会も予定しています。

盛岡	平成22年10月12日（火）	アイーナ
釜石	平成22年10月19日（火）	釜石地区合同庁舎
久慈	平成22年11月4日（木）	久慈地区合同庁舎
二戸	平成22年11月8日（月）	二戸地区合同庁舎
宮古	平成22年11月16日（火）	宮古地区合同庁舎
大船渡	平成22年11月25日（木）	大船渡地区合同庁舎
奥州	平成22年11月30日（火）	奥州地区合同庁舎分庁舎
北上	平成22年12月7日（火）	北上地区合同庁舎
一関	平成22年12月9日（木）	一関地区合同庁舎
花巻	平成22年12月14日（火）	花巻地区合同庁舎

高齢者の社会参加支援地域セミナー

～職場から地域へ、団塊世代の地域デビュー～

本セミナーは、職場を定年退職された方や社会活動の機会を得たいと考えている高齢者の方々が、長年培った技能・知識・経験を活かして、社会参加することにより、人生をいきいきと、豊かに過ごしていけるよう、そのためのヒント、きっかけ等を提供し、新たな地域デビューを後押ししようとするものです。今回は、二戸市での開催です。

日程 平成22年9月30日（木）
会場 二戸地区合同庁舎1階大会議室
講師 佐野逸朗氏（これからだ倶楽部代表）
講演後、講師を囲み座談会
※講師から、豪華な景品が当たるクイズがあります。

企画・発行/岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1-7-1 アイーナ6階 Tel 019-606-1774 Fax 019-606-1765

E-mail koreisha-hfk@aina.jp URL <http://www.aina.jp/advancedage/index.html>

特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から受託運営しています。

〒020-0021 盛岡市中央通3-7-30 Tel. 019-604-8862 URL <http://www.hfk.or.jp/>

かだる

輝くシニア

バラと共に生涯現役 国際コンテストで大賞を受賞

吉池貞蔵さん 79歳（花巻市）

吉池貞蔵さんは今年5月、埼玉県西武ドームで開催された「第12回国際バラとガーデニングショウ」バラ切り花部門で大賞を受賞しました。2006年に続き、同コンテストでは2度目の大賞受賞です。また、全国各地でのバラのコンテストでも数々の受賞歴を持っています。「香りがよく、病気に強いバラを作りたい」と品種改良にも余念がなく、バラに生きがいと情熱を傾けています。



＜自宅近くのバラ園で夢を語る吉池貞蔵さん＞



国営越後丘陵公園「国際香りのばら
新品種コンクール」国土交通大臣賞
受賞の新品種バラ「真宙（まそら）」

吉池さんが初めてバラに魅せられたのは、大学在学中。アルバイト先でバラの苗を手にし、「自分で育てていく中で、バラの虜になった」とのことです。

卒業後、盛岡農業高校に就職。その後、県の園芸試験場でリンドウなどの栽培普及に長年携わりました。退職後もしばらく安代町（現八幡平市）でリンドウの品種改良の仕事に従事したのち、本格的にバラの栽培に取り組むようになりました。以来、バラの栽培に情熱を注ぎ、今年で7年目。現在、栽培するバラの品種は200種類以上になります。

これまで、第3回国営越後丘陵公園「国際香りのばら新品種コンクール」で国土交通大臣賞（写真）、「第7回ぎふ国際ローズコンテスト」銀賞、海外ではカナダのバンクーバーで開催された「ワールドローズショウ」ベストローズ賞など、数々のコンテストで受賞しています。

しかし、輝かしい受賞歴を持ちながらも、「コンテストへの出品は、病気に強いバラを作っていくためにやっていること。香りがよく病気に強いバラを育種したい」と、受賞の先に、本当に追い求めている夢を語っていました。

現在79歳。「理想のバラ」を追求する姿は、初めてバラの魅力を知った青春時代のままだ、今もなお生き生きとしています。

不可欠な、地域社会での支え合い活動

政府は、5月に平成22年版の高齢社会白書を公表しています。

昨年の白書では、「活動する高齢者が増加する一方、地縁血縁の支えも持たないまま孤立した高齢者の増加も懸念される」、としていました。今年の白書では、特に一人暮らし老人の孤立化を取り上げ、地域社会の支え合いが不可欠だと強調しています。以下に要点を掲げます。

○高齢化の進展

全国では、65歳以上の高齢者人口は、2,901万人で、高齢化率が、22.7%（岩手県では、36万人、26.9%）で、5人に1人が高齢者、さらに10人に1人が75歳以上（後期高齢者）という本格的な高齢社会となりました。

団塊の世代が65歳以上になる平成27年には、高齢者数は3,000万人を越え、更には平成29年には、75歳以上人口は、前期高齢者を上回るものと見込まれています。

○一人暮らし高齢者の増加

一人暮らし高齢者が高齢者人口に占める割合は、昭和55年には、男性が4.3%、女性が11.2%でしたが、25年後の平成17年には男性9.7%、女性10.0%で特に男性の一人暮らし高齢者が増加しています。また、一人暮らし高齢者は、健康

や生活費等の「心配事や悩み事がある」人が多いとされています。もちろん例外はあります。

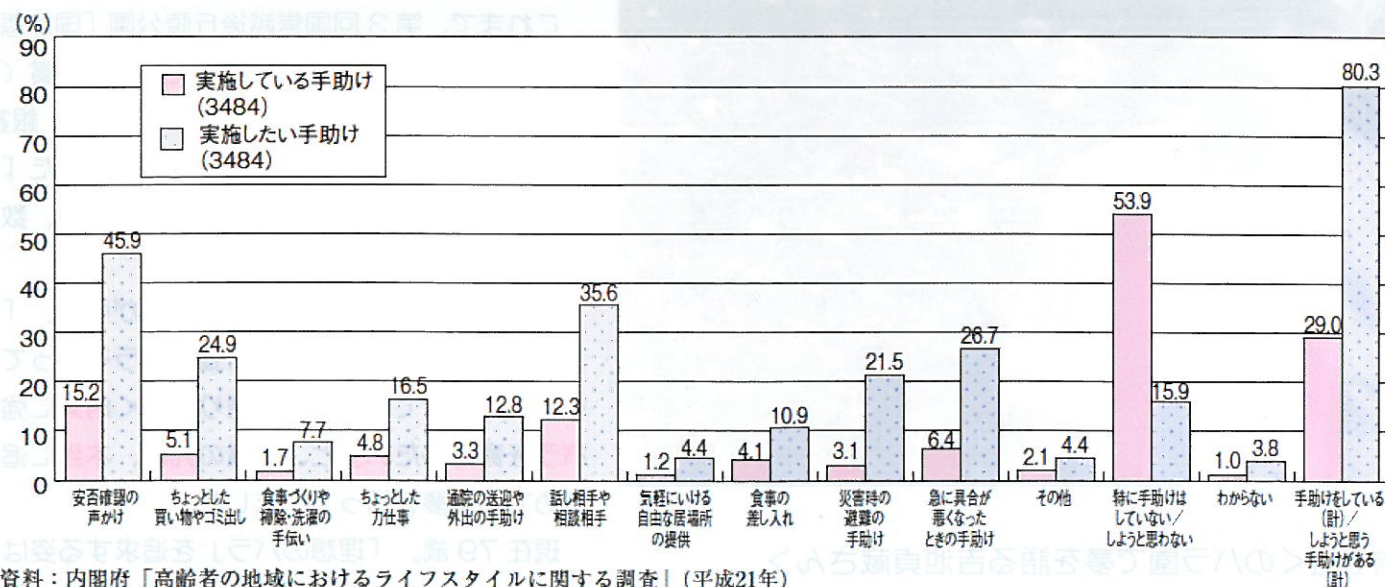
○「孤立」から「つながり」そして「支え合い」へと向かう取り組み

～元気な高齢者を孤立した高齢者の支え手に～
現実の高齢者に目を向ければ、潜在的な支え手は多い。要はそれをどのように顕在化させるかです。

60歳以上の男女を対象にした内閣府の調査によれば、「困っている世帯に手助けしたい」と考える者は8割に上る一方で、実際に「手助け」をしている者は3割にとどまっており（下図参照）、高齢者の気持ちと実際の行動には大きなギャップがあります。

地域に潜在している「支え手」を活動へ引き出すリーダーになる人材を発掘し、養成してゆくことが重要です。

困っている世帯への手助けの状況



資料：内閣府「高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査」（平成21年）
（注）調査対象は、全国60歳以上の男女



あーとびる麦生（久慈市）

地域の話

前郷生き生き交流会（紫波町）

久慈市侍浜町に今年5月、美術館「あーとびる麦生」（熊谷行子理事長 会員30名）がオープンしました。同市の芸術家 熊谷理事長は「久慈に美術館を開設したい」という願いから、2009年3月に閉校した市立麦生小中学校を市から無償で借り受け、整備し、岩手県出身の画家の絵画を中心に展示しています。寄贈された絵画は約200点。廊下、教室、体育館等に油絵、水彩画等が展示されています。

毎週土日の開館にも関わらず、オープン5月からの来館者数の累計は1,000人を超え、県内のみならず遠くは千葉、神奈川からも訪れ、多くの方々に親しまれています。また、毎週子ども向けに絵画、折り紙等のワークショップを開催したり、創作活動をする作家や学生の滞在も受け入れています。これまで20人程が滞在のため利用しています。趣味で絵を描いているシニアの方の滞在が多く、海岸に出かけ絵を描いたり、作品を仕上げるために滞在しています。

運営のために、地元シニアの方がボランティアで数多く関わっており、スタッフの方は「楽しんで活動しています。生きがいになっているんでしょうね」と話しています。



絵の寄贈、来館、滞在などのお問い合わせは090（3750）8714です。

＜熊谷理事長（中央）とスタッフの皆さん＞

都市近郊では農地の宅地化が進み、特に農村地帯では地域社会のありようも大きく変化しつつあると言われています。



紫波町前郷地区

＜「前郷生き生き交流会」の皆さん＞

も同様の状況です。

他市町村からの転入者が増え、地域での交流の希薄化が懸念される中で、同地区の高齢者が中心となって、「前郷生き生き交流会」（岡田尚治会長 会員50名）が、平成22年2月に設立されました。設立の趣旨は、「休耕田を活用した米づくりを通じて、地域の高齢者の交流や、住民相互の親睦をはかること」です。また稲藁をつかったしめ縄づくりなど年間の行事も視野にしています。

これまで、雑草を焼き、田に水を張って苗を植え、除草を行う等の作業をこなし、今は秋の実りを待つところです。

来年度からは子どもたちも加えて、地域の伝統行事として定着させたいとしており、保護者からも大きな期待が寄せられています。

岡田会長は「地域の交流を深めることで、いざという時の助け合いに繋がる。普段からのふれあいが大切」と話しています。同会へのお問い合わせは019（676）5610です。

（この事業の一部に、岩手県長寿社会振興財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）

コラム ～書籍紹介～

■「くじけないで」

飛鳥新書・柴田トヨ＜著＞

「すばらしい詩集です。今まで詩に興味のなかった人もこの柴田トヨさんの『くじけないで』はぜひ読んでみてください。人生いつだってこれから、何を始めるにもおそ過ぎるということはないと元気がでてきます」 — 漫画家 やなせたかし（「アンパンマン」作者）—

柴田トヨさんは92歳から詩を書き始め、産経新聞「朝の詩」に投稿し、常連となりファンが増えました。テレビ、ラジオ、新聞、週刊誌等に取り上げられ、素人の詩集としては異例の60万部発行（平成22年8月時点）。

98歳のトヨさん（現在99歳）が「人生いつだって、これから」と自分自身を励ましている姿、純粋で飾らない生き方が共感を呼んでいます。



パソコン豆知識（2）

■パソコンを利用して、趣味、楽しさがひろがります。

- 家庭内、友人等のコミュニケーションの道具として
- ・デジカメで撮った写真を入れて年賀状、同窓会の案内、家庭新聞、お孫さんの誕生日カード作成
- ・家計簿を作成
- ・離れて暮らす子ども夫婦と、写真、作成したカード等を添付し近況などのやり取り



★工夫次第で様々なパソコン利用法があります。楽しみながらご自分に合った利用をお試し下さい。